2025年度第１回ファイナンシャル・プランニング技能検定１級実技試験

Part Ⅰ（2025年６月14日）　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

●設　例●

Ａさん（60歳）は、都内で化学品卸売業を営むＸ株式会社（非上場会社）の２代目社長である。Ｘ社は、100％子会社として加工製造部門を持ち、仕入先である化学メーカーとの擦り合わせによる高い技術と品質で得意先の信頼を得てきた。伝統商品である顔料・染料のほか、近年は半導体向けの電子部品材料の需要が旺盛で、業績は堅調に推移している。

【事業承継について】

Ａさんには長男Ｃさん（28歳）と長女Ｄさん（25歳）の２人の子どもがいる。Ａさんは４人兄弟の長男として創業者である父からＸ社を引き継いだ経験から、自分の長男に事業承継することを既定路線と考えてきた。そこで、長男Ｃさんが大学生だったときに話し合いの場を持ち、長男Ｃさんも覚悟を決めて受け入れたところである。現在、長男Ｃさんは、Ｘ社の主要仕入先である大手化学メーカーに勤務し、「製造」「リスク管理」「経理・財務」等、さまざまな業務を経験しており、Ｘ社が創業50周年を迎える２年後にＸ社に転じる予定である。

また、Ａさんは、ゆくゆくは長男Ｃさんにバトンタッチをするものの、社長交代に至るまでのキャリアパスとＸ社株式の移転をどうするかは思案中である。特に、適用期限が迫っている法人版事業承継税制の特例措置の適用を受けるかどうかは早めに決めなければならないと感じている。

【資産承継等について】

Ａさんは、Ｘ社株式を後継者である長男Ｃさんに承継し、現預金および有価証券の半分と自宅を妻Ｂさんに相続した場合、長女Ｄさんとの間で相続財産の不均衡が生じることに不安を感じている。

Ａさんは、優良企業のオーナー社長として名が通っていることから、相続・事業承継に絡めて、銀行をはじめ、保険会社、証券会社、不動産会社、リース会社等からさまざまな商品の提案を受けており、情報整理の必要性を感じている。

【Ａさんの所有財産の概要】（相続税評価額、土地は小規模宅地等の評価減適用前）

１．現預金	：	１億円（役員退職金は考慮していない）
２．有価証券	：	１億円
３．Ｘ社株式	：	４億5,000万円
４．自宅		
①土地（250㎡）	：	２億円
②建物（築10年）	：	5,000万円
合計	：	９億円

※Ａさんの相続に係る相続税額は、約３億1,000万円（配偶者の税額軽減・小規模宅地等の評価減適用前）と見積もられている。

【Ｘ社の概要】

資本金：5,000万円　　会社規模：大会社　　従業員数：150人
売上高：60億円　　経常利益：１億円　　純資産：15億円
株主構成（発行済株式総数10万株）：Ａさん90％、妻Ｂさん５％、取引先法人５％
株式の相続税評価額：類似業種比準価額5,000円／株、純資産価額20,000円／株（注）
（注）本社・工場等の不動産や取引先の上場会社株式の含み益が大きい。

（注）設例に関し、詳細な計算を行う必要はない。

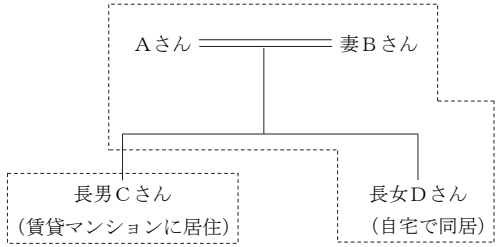
検討のポイント

●設例の顧客の相談内容および問題点として、どのようなことが考えられるか。
●それらの相談内容および問題点を解決するために、どのような提案・方策が考えられるか。
●それらの方策（解決策）のなかで、何を顧客に提案するか。その理由・留意点は何か。
●ＦＰと職業倫理について、どのようなことが考えられるか。

【Ａさんの家族構成（推定相続人）】

妻Ｂさん　（58歳）：専業主婦。Ａさん、長女Ｄさんと自宅で同居している。
長男Ｃさん（28歳）：大手化学メーカー勤務。独身。賃貸マンションに居住している。
長女Ｄさん（25歳）：会社員。独身。Ａさん、妻Ｂさんと自宅で同居している。

【親族関係図】



（メモ余白）